

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	163	事業名	映像資料の調査・保存事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	8mmフィルムによって撮影された文京区の様子を、フィルムの劣化と散逸する前にデジタル化して保存します。保存された映像は、行政資料として活用するほか、上映会等で多くの区民に見てもらえる機会を設けます。		
手段	区報や区HP、上映会会場において、8mmフィルムの所有者に対し資料提供を呼びかけます。提供された資料はデジタル化（DVD、DV-CAM）化して保存します。また、提供者に対しても借用したフィルム返却時にDVDをお渡しします。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
デジタル化資料数	件	89	40	44	110%	40	15	38%	40

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	6,927	7,188	7,188	7,188	7,188	650
特定財源	6,927	7,188	7,188	7,188	7,188	0
一般財源	0	0	0	0	0	650
所要人員 B	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,128	2,069	2,069	2,043	2,043	2,060
総経費 E=A+D	9,055	9,257	9,257	9,231	9,231	2,710

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	平成22年度は委託期間が7月1日からの9カ月と短かったにもかかわらず、NPO法人映画保存協会がこれまでの活動の中で培ったネットワークにより、予定数を大幅に超える資料の保存ができました。また、平成23年3月6日（日）に駒込地域活動センターで上映会を開催した際には、予定入場者数80名のところ150名もの来場者があり、区民の関心の高さがわかりました。	【成果】	これまでの調査活動に加え、上映会の際にも所蔵資料の情報提供がされた。そのうち区に関連するもの、資料価値の高いもの、年代が古いもの等に重点を置き、44本（当初予定40本）のフィルムデジタル化した。デジタル化したフィルムを中心に、その内容にゆかりのある3つの地域にて上映会を開催し、合計で200名を超える来場者があり、関心の高さを伺えた。
【課題】	NPO法人映画保存協会が文京区千駄木にある法人のため、根津千駄木周辺の所有者情報には強いが、それ以外の所有者の掘り起こしが重要と考えます。また、これまでにデジタル化しきれなかった資料を継続して保存していくとともに、上映会も区内全域で行う必要があります。	【課題】	調査対象となるフィルムの概数の、デジタル化する本数、上映会の開催回数などの目標の達成値の設定と、デジタル化後の効果的な活用方法の検討が必要である。
指標達成度		23年度	24年度
		A	A
			C

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	図書館等での貸出、有償頒布等、資料としての活用の要望があります。
②	区内NPO団体に事業運営を委託しています。 ・上映会への来場のほか、自主的なフィルムの提供を受けています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 貴重な資料の後世への継承及び新たな歴史の発見に資するため、上映会の他、視聴覚ライブラリーでの貸出、区HP・CATVなどを通じ、情報発信を図ります。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 委託費（緊急雇用創出事業）の減 △6,538千円 【内訳】 委託料（緊急雇用創出事業）の皆減 △7,188千円 委託費の皆増 650千円
		③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.3 計0.3人
25年5月末	改善・見直し	④ 現状維持の理由

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	164	事業名	(仮称) 森鷗外記念館の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画			
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	文京区にゆかりの深い文豪森鷗外の作品や業績を広く区民等に伝え、文学のまちとして区の魅力及び情報を発信することにより、森鷗外の魅力を再発見するとともに、多様な人々が集う、新たな交流空間の創出と文化の振興に寄与するため、森鷗外記念館を開館し運営します。		
手段	「(仮称) 森鷗外記念館」整備検討委員会の報告に基づき、記念館の建設を進めるとともに、同館管理運営検討委員会の検討結果報告により、指定管理者制度による運営の準備をすすめています。また、平成21年4月に「森鷗外基金」を創設し、広く寄附を募っています。この基金は目的を建設から運用に変更し、記念館開館以降も継続します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
建設工事進捗度	%	13	100	75	75%		25		
展示工事進捗度	%	1	10	11	110%	100	100	100%	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	393,448	445,026	238,527	281,085	283,400	86,726
特定財源	287,408	101,600	109,016	151,516	159,011	1,512
一般財源	106,040	343,426	129,511	129,569	124,389	85,214
所要人員 B	2.70	3.20	2.00	1.30	1.30	0.80
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	19,148	22,064	13,790	8,852	8,852	5,494
総経費 E=A+D	412,596	467,090	252,317	289,937	292,252	92,220

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	建設及び展示工事について、平成22年6月に設計を完了し、解体工事を経て、同年12月に建設工事、23年1月に展示工事に着手しました。		【成果】
		①森鷗外記念館を区内外に強くPRするとともに、森鷗外が永年暮らした文京区の魅力を全国に向けて発信するため、平成23年12月より、森鷗外生誕150年記念事業を開始しました。 ②建設工事は東日本大震災と電力使用制限令等の影響により、平成24年3月20日までの工期を5月31日まで延長しました。	①森鷗外生誕150年記念事業は平成24年12月終了し、3都市との交流も深まりました。 ②森鷗外記念館は、建設工事が5月、展示工事も10月に完了し、11月1日に開館となりました。 ③入館者は2万人を超え、利用者も順調に推移しています。森鷗外と鷗外の暮らした文京区の魅力を多くの人に発信できました。
【課題】	①鷗外及び記念館を広く周知するため、鷗外生誕150年にあたる平成24年を通して、他課等と連携し、多彩な記念事業を行う必要があります。 ②開館後の展示や資料調査に役立つ、所蔵資料のデータベースを整備する必要があります。 ③開館後、たえず多くの人に繰り返し来館いただける記念館であるために、長期的な展示や行事企画等の準備を進める必要があります。		【課題】
		①森鷗外生誕150年を迎え、これを好機として、鷗外ゆかりの「津和野」「小倉」「ベルリン」との連携を深める必要があります。 ②開館に向けて、整備される所蔵資料データベースを常時、更新する必要があります。 ③開館後、来館者要望を適確に把握し、運営に活かす必要があります。	①多様な企画を実施し、現代に生きる森鷗外の知恵を更に多くの人に発信する必要があります。 ②日常的な資料収集と整理にも意を注ぎ、将来にむけてより充実した記念館となる必要があります。 ③利用者の満足度の高い施設運営を心がける必要があります。
指標達成度			
		23年度	24年度
		A	B
			25年度
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①鷗外生誕150年にふさわしい大事業に踏み切った文京区およびそれを支持する区民の皆様にご敬意を表します。新しい記念館の完成を心待ちにしています。(基金寄附者からの意見)・以前の図書館の時にかつて来たことがあり、新しくなったと聞いて来てみました。今の技術(タッチパネルなど)ふんだんに活用しているの楽しみながら観させていただきました。また来たいと思います。鷗外以外にも、文京区にゆかりのある文人の展示があると良い。(来館者の意見)②150年記念事業実行委員会への町会、商店会、観光協会、ミュージアムネットからの参加。地元町会主催の三元インターネット交流の実施。商店会の関連事業の実施。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	建設工事は24年5月31日、展示工事は10月1日に完了し、11月1日に開館しました。今後、引き続きホームページ等でPRを行うとともに、特別展や関連講演会などを実施し、観覧者数の増加を図っていきます。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 0.5人+1人×30%=0.8人 ④ 現状維持の理由 森鷗外記念館が開館し経常的運営になりました。

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	165	事業名	アウトリーチ事業の実施
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
文化・芸術活動			
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	身近な施設で優れた芸術文化に直接触れ、参加する機会を提供することにより、区民の芸術文化に対する理解や関心を深めます。		
手段	小・中学校や地域の文化施設など、身近な施設に演奏家等が出向き、ミニコンサートを開催します。コンサートの中で参加者が演奏に参加するだけでなく、ワークショップなどの手法を活用して参加者が芸術文化に触れる機会を設けます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
アウトリーチ事業（小・中学校）開催回数	回	4	4	4	100%	4	4	100%	4
アウトリーチ事業（文化施設等）開催回数	回	0	4	4	100%	4	4	100%	4

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,575	2,150	2,150	2,150	2,150	3,335
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,575	2,150	2,150	2,150	2,150	3,335
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030
総経費 E=A+D	2,639	3,184	3,184	3,171	3,171	4,365

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
25年度		25年度	
【成果】	22年度はアウトリーチ事業として、東京フィルハーモニー交響楽団の13人のオーケストラによる「出前コンサート」を区立小学校4校にて実施しました。楽器紹介、オーケストラと歌うなどのプログラムを児童、教員、保護者、地域の方たち1,580人に鑑賞いただきました。（この他に、シビックホール10周年記念のアウトリーチ事業として、指定管理者の自主事業で、ミュージズネットデリバリーコンサートや鼓童交流公演及びワークショップを開催しました。）	【成果】	23年度はアウトリーチ事業として、東京フィル及びシエナの13～14人のオーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など1,243人に鑑賞いただきました。さらに鼓童による交流公演及びワークショップを開催したほか、ミュージズネット加入施設2ヶ所でデリバリーコンサートを実施しました。
【課題】	中学校での実施がなかったので、中学校向けの日程調整やプログラムを検討する必要があります。22年度に新たに事業協定を結んだシエナ・ウィンド・オーケストラによるアウトリーチ事業を積極的に実施していく必要があります。多くの方に身近な施設で鑑賞していただけるよう、会場となる学校や施設のより一層の協力をいただく必要があります。	【課題】	中学校での「出前コンサート」については、開催時期や実施方法など事前調整を学校側と綿密に行う必要があります。また、多くの区民のみならず文京シビックホールで開催する主催公演に足を運んで下さるよう、広報活動の連動性をより高めていく必要があります。
指標達成度		23年度	24年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	コミュニティコンサートを行った施設から「来場者に大変喜ばれた」「入館者が増えたなどの効果があった」と好評でした。今後も継続的に開催したいという希望がありました。
②	区内小中学校向けでのアウトリーチ事業においては、児童・生徒の皆さんから「プロの演奏を間近で聴けて良かった」など高い評価をいただきました。近隣住民の皆さんも気軽に鑑賞できる場を継続的に提供し、今後も身近に文化芸術を感じられる工夫を積極的に行っていきます。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	拡充	① 事業の展開内容 区立小中学校やミュージズネット施設でのアウトリーチ事業、太鼓ワークショップ等を実施します。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 平成24年度2,150千円 平成25年度3,335千円 1,185千円増（ホール事業経費との調整による。）
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人 ④ 現状維持の理由 指定管理者が実施する自主事業においては、独自予算で「管楽器アンサンブル技術の向上クリニック」を行うなど新たなアウトリーチ事業を実施していきます。

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	166	事業名	シビックホールでの文化芸術振興事業の実施
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	優れた芸術鑑賞事業や区民参加型の事業を実施することにより、区民が文化芸術に触れ、体験できる場を提供します。また、事業を通じて芸術文化の振興を図ります。		
手段	事業協定を結ぶ芸術団体による芸術鑑賞事業や区民参加型事業をシビックホールにおいて実施します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大ホール事業開催回数	回	3	4	4	100%	4	4	100%	4
小ホール事業開催回数	回	1	2	2	100%	2	2	100%	2
区民参加事業開催回数	回	2	2	2	100%	2	2	100%	2
森鷗外生誕150年記念事業開催回数	回					2	2	100%	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	6,147	6,851	6,851	15,551	15,551	5,666
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,147	6,851	6,851	15,551	15,551	5,666
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030
総経費 E=A+D	7,211	7,885	7,885	16,572	16,572	6,696

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
【成果】 東京フィルハーモニー交響楽団によるクラシックコンサートを3回実施し、延べ来場者は4,738人でした。(大ホール) 東京フィルハーモニー交響楽団による子ども向けコンサート1事業2公演を実施、延べ来場者数は562人でした。(小ホール) 区民参加演劇は12人が受講、延べ85回の講習を経て成果を発表、来場者数は369人でした。(小ホール) 区民参加オペラは111人が受講、延べ51日の講習を経て成果を発表、来場者数は1,453人でした。(大ホール)	【成果】 東京フィルによる公演を3回実施し、延べ来場者は4,934人でした。シエナによる公演は1回実施し、来場者数は1,623人でした。(大ホール) 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサート2事業3公演を実施し、延べ来場者数は685人でした。(小ホール) 区民参加演劇は10人が受講、延べ83回の講習を経て成果を発表、来場者数は369人でした。(小ホール) 区民参加オペラは111人が受講、延べ68回の講習を経て成果を発表、来場者数は1,365人でした。(大ホール)	【成果】 東京フィルによる公演を3回実施し、来場者は延べ5,042人でした。シエナによる公演は1回実施し、来場者は1,622人でした。鷗外記念事業「オルフェウス」は1回実施し、来場者は1,370人でした。(大ホール) 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサート2事業4回を実施し、来場者は延べ1,274人でした。鷗外記念事業「鷗外の恋 舞姫エリスの真実」は2回実施し、来場者は延べ497人でした。(小ホール) 区民参加演劇は8人が受講、延べ83回の講習を経て成果を発表、公演は2回実施し来場者は延べ434人でした。(小ホール) 区民参加オペラは108人が受講、延べ70回の講習を経て成果を発表、来場者数は11,392人でした。(大ホール)	
【課題】 より多くの方にシビックホールで鑑賞していただけるよう演目やソリストの選定を工夫するとともに、より効果的なPRをすることが必要です。 22年度に新たに事業協定を結んだシエナ・ウィンド・オーケストラによる芸術鑑賞事業を積極的に展開する必要があります。	【課題】 クラシックや伝統芸術をはじめ、高品質の公演を気軽に鑑賞していただけるよう公演企画を工夫するとともに、さまざまな媒体を活用して区内に広報活動を確立していくことが必要です。さらに24年度は森鷗外生誕150年記念事業を区と連携して実施していく必要があります。	【課題】 ツイッターやフェイスブックといった広報媒体を効果的に使用しながら、幅広い年齢層の方々に足を運んでいただける公演にしていくことが必要です。子ども向け公演については、0歳から親子で楽しめるコンサートをこれまで以上に積極的に取り入れ計画していく必要があります。	
指標達成度			
	23年度	24年度	25年度
	A	A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	事業アンケートでは、「安価な価格で良い公演を楽しめた」「文京シビックホールでのこの種の公演が行われて嬉しい」「子どもたちが毎年楽しみにしている」といった満足度の高いご意見をいただいています。
②	「区民参加オペラ」「区民参加演劇」では、舞台芸術の専門家による年間を通じた指導により初心者の方でも本格的なオペラや演劇に参加する機会を設けています。応募者数は毎年微増傾向にあります。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	東京フィルによるクラシック公演を3回、シエナによる吹奏楽公演を1回、東京フィルとシエナによる子ども向け公演を計4回、区民参加オペラ及び区民参加演劇を実施します。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 森鷗外生誕150年記念事業が終了したため、予算は縮小します。
25年5月末	縮小	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人 ④ 現状維持の理由 指定管理者が実施する自主事業においては、独自予算で多種多様な文化芸術振興事業を実施していきます。

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	167	事業名	文化祭／各種発表会／若手芸術家支援
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	芸術文化と伝統文化を普及・発展・継承し、文化芸術情操の充実を図り、文京区ならではの文化の創造と発展を図ります。		
手段	日頃の練習の成果や、創作活動の成果発表の場を設けるとともに、区民等に対し、質の高い文化・芸術に身近に触れる機会を提供します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
文化祭等参加者数	人	2,948	3,350	3,241	97%	3,400	3,536	104%	3,450
(内訳)各種大会・つどい参加者	人		2,350	2,550	109%	2,350	2,864	122%	2,400
文化祭出品者	人		1,000	691	69%	1,050	672	64%	1,050

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	22,250	23,546	22,768	23,577	23,229	11,447
特定財源	8,113	8,818	7,843	8,930	8,614	1,114
一般財源	14,137	14,728	14,925	14,647	14,615	10,333
所要人員 B	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	11,702	11,377	11,377	11,235	11,235	11,332
総経費 E=A+D	33,952	34,923	34,145	34,812	34,464	22,779

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】 例年通り、7つのつどい・大会を開催するとともに、秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・洋画展・日本画展）、俳句大会を開催しました。特徴的なものとしては、秋の文化祭の書道展において、出品数が初めて300点を超えました。日本画展では、若年層の出品がわずかながら増え、その若者が区長賞を取ることができました。		【成果】 例年通り、7つのつどい・大会を開催するとともに、秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・洋画展・日本画展）を開催しました。かねてより申し込みが多かった合唱のつどいの募集枠を10団体増やした結果、参加団体が4団体増加し、全体としての微増につながりました。		【成果】 例年通り、7つのつどい・大会を開催するとともに、秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・洋画展・日本画展）を開催しました。主管団体と一層の協働を図り積極的な周知活動を行った結果、参加者・出演者ともに増加に繋がりました。	
【課題】 全ての事業を通じて、若年層（～30代）の参加が少なく、区内大学等への呼びかけを強化する必要があります。合唱のつどいは募集の定数を超えたため、抽選を行った結果6団体が出演できませんでした。より多くの団体が参加できるよう、開催時間の見直しなどを行う必要があります。		【課題】 依然として、若年層（～30代）の参加が少ないため、区内大学等への呼びかけをさらに強化する必要があります。全体的に参加者数の減が目立ったため、効果的な広報を図るとともに、魅力ある事業となるよう各団体と協議をしていくことが必要です。		【課題】 文化・芸術の普及・継承、新たな文化創造には、安定的な参加者に加え、特に若年層を中心とした新規参加者の確保が必要です。引き続き、区内大学等へより積極的かつ効果的な働きかけを行うほか、周知対象を広げる必要があります。	
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		A	B	B	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	出演者から「シビックホールでの発表は、日頃の練習の励みに繋がっている」等との声が寄せられる一方、一部の主管団体からは、「大会（つどい）に子どもや青少年が参加することは、場も和み事業の活性化に繋がりが非常に良いことだが、（学校・塾等で多忙な為）なかなか続けられる子どもがいない」との声もある。
②	各種つどい・大会の運営は、区民によって構成される協会や連盟に委託しています。
③	文化祭の運営や作品審査等については、区内で活動するメンバーを中心とする、文京区華道茶道連盟・文京区書道連盟・文京美術会に協賛いただき、区民が主役となれるよう呼びかけを行っています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	各団体との連携を一層強化し、より主体的な事業運営のサポートや効率化を図るとともに、若年層等に対する普及・周知活動を推進していきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 非常勤報酬4049千円の減、時間外勤務手当1146千円の減、共済費（非常勤職員）1278千円の減、委託料（緊急雇用対策）5738千円の減 第200回シビックコンサートの報償費25千円・食糧費55千円・印刷製本費142千円、一般役務費100千円の増、各種つどい・大会の委託費50千円の増、文化祭海上設営委託費の増、750千円の増
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 4人×0.3 非常勤職員 0.5×3人×(0.1+0.1+0.1) 計1.65人 ④ 現状維持の理由 各種つどい・大会、秋の文化祭も安定した運営であり、本区の文化・芸術の普及・発展、多くの区民の成果発表等に有効であるため。